

# 徳島子どもと教育

**徳島県教職員の会**  
〒771-0017徳島市川内町鶴島115  
黄金ビル 徳島労連事務所内  
TEL 088-665-6644  
FAX 088-665-2117  
携帯 090-2891-5189  
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp  
2016年6月12日 207

## 道徳の教科化は何をめざす？

～ ゆきとどいた教育をめざす会総会と学習会を実施 ～



5月14日(土)、教職員の会も加盟している、ゆきとどいた教育をめざす徳島県連絡会が総会と学習会を行いました。

学習会では、「安倍内閣の進める『道徳の教科化』その中身とねらいは？」と題して「子どもと教育全国ネット21」常任運営委員である鈴木敏夫さんに講演をしていただきました。以下は要旨です。

2018年から道徳が教科化になるが、なぜ今まで道徳が教科にならなかったのか。それは明治政府が、明治維新以後、どう日本を統合し、治めていくのかを考えた際に、日本は神の国だから、

神である天皇がこの国を統治すれば良いと考えた。そこで、正しい行いの徳目が入っている修身という教科と天皇の言葉である教育勅語で、国民はこの国のためにどう働くべきかを徹底して教育した。人々が身を正しくして家を守っていれば、国が治まり、そして、いったん国に事ある場合には進んで兵隊になり、国のため、天皇のために戦争にいく国民を作っていた。これが戦後、君主が道徳の問題を命令した事が有害だったとして教育勅語、修身の排除・廃止が国会で決議された。道徳の前身である修身はここでもなくなった。

しかし、道徳は復活してくる。なぜか。一つは国家権力が崩壊して降伏したドイツやイタリアと違い、日本は連合国と交渉して降伏したため、復古的国家主義支配体制が残ってしまった。もう一つは、1949年に中華人民共和国が成立したため、日本を極東アジアの反共の防波堤にしようとする動きが出てきた。これらが教育にも影響を与え始める。レッドパージや池田・ロバートソン会談(1953年、愛国心と自己防衛を啓蒙・啓発することが政府の責任であると対米公約をする)の後に、1958年学習指導要領が告示され、教科でなく、特設「道徳」として復活してくる。

そして、その後、第1次安倍内閣の教育再生会議で道徳を教科にすると答申したが、そのときの中央教育審議会が道徳を教科にすることは無理があるとして否定。しかし、情勢は天津のいじめ自殺事件で一変する。第2次安倍内閣の教育実行再生会議で道徳教育をきちんとやっていないから、いじめ問題が起こるとして、道徳の教科化と生徒はいじめをしてはならないとする法律をつくる、そして、教育委員会制度の改革の3つを一気にやってしまおうと国会で通してしまった。現在、道徳の教科書の検定をする段階になってきている。教科になって何が問題か、何がどう変わるのか。それは、国が検定した教科書を使用する義務があるということ。しかも、今度の学習指導要領では、学習のやり方まで書かれている(例えばアクティブラーニングをする)ために現場に押しつけられる。しかも道徳は対応する学問がなく、専門家もおらず検定も難しい。決まった以上、道徳の学習内容がふさわしいかどうかは、教科書調査官が決めることになる。また、道徳の評価の問題もある。テストはないが、成績表などに道徳の評価欄が入り、文章で書くことになる。そうすると入試で合否が左右される場合もでてくる。また、教科になると免許が必要になるが、道徳の免許のない教員が、授業を行うことになる。現場では道徳教育推進教師と管理職がリーダーとなり、がちがちに固められ、授業をさせられることになるだろう。

次に、道徳の内容の問題点やその特徴を述べる。まず、小学校の低学年で習う内容の中に「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着を持つこと」とある。今の学習指導要領では上級生になれば入っていたが「我が国」はなかった。これは愛国心教育の強化になっている。また、教える項目には、憲法的価値、つまり平和、人権、民主主義を教える項目がなく、しかも、修身の徳目と親和性が高いことが特徴となっている。道徳は特別な教科という位置づけなので教育全体が道徳化される懸念がある。教科書の出版社が出している「算数と道徳教育」を見てみると、この中に「国技である相撲の土俵の大きさについて考え、伝統にふれる」とあるが、これが愛国心と関連づけられている。笑えるが、これが教育の中身に介入してくると問題だろう。

文科省が出している「私たちの道徳」を見てみると、自分の生活を見つめる、いじめをなくそう、秩序と規律、法やきまりの意義、江戸しぐさ等が載っている。何を書けば先生が喜ぶのかが生徒はわかっている。評価されるので生徒の本音が出しにくい。江戸しぐさについては、証拠がなくインチキくさい。白鵬社は検定時に掲載していたが、外した。しかし、文科省は残している。文科省は道徳では江戸しぐさの真偽を教えるのではなく、礼儀について学習するのだと答えている。真偽のはっきりしないものを教材にしているのか。ウソからは礼儀は学べない。

道徳には、事件があった時に人権の立場にたって自分の生き方を考える全面主義の道徳か、教科書で学ぶ徳目主義の道徳に分かれる。徳目主義の道徳では、一人一人が正しい道徳を身につければ社会が良くなるという考え方だ。しかし、大学生が亡くなったバス転落事故では責任は誰がとるべきなのか？社長や運転手の一人一人の心がけのせいなのか。この事故は規制緩和が行き過ぎたしくみの中で起こった事故で、社会の水準が道徳の水準を決めると言って良い。

次に、今度の2020年に変わる学習指導要領だが、2030年がどんな社会かを見通して教育の骨格を決めている。それにはグローバル化が進み教育にも影響を与えるだろうとしている。「他者と共存しながら」がキーワードで、これがアクティブラーニングにつながっている。教育再生実行会議ではICT教育・理数教育・英語教育を重視すると言っている。英語教育では高校では英語で討論を、中学では授業で話す力を、小学校では5・6年生で教科にして、グローバル化を優先する。そして、学力はアクティブラーニングとICTをいろいろな授業で活用することで、力をつけていくとしている。が、しかし、そんなに簡単なことではない。準備が大変だし、教科書も終わらせなくてはならない。しかも、子どもの実態に合わせて授業を行うのが教師の専門性であるはずだが、カリキュラムスタンダードと称して、どんなクラス、どんな子どもにも同じ授業をしないといけないとされる。黒板のどこに何を貼るのかさえ指導される。これが人事評価される。

また、教育のグローバル化といいつつ、教育費はOECD諸国の中でも少なく、少人数学級でもない。日本の教育はトップエリートをどう作るかが主で、学校は自己責任を教える場となっている。貧困の格差もアメリカよりもひどく、特に貧困層の上と下の差がひどい。底が抜けている。OECD諸国の中で授業料も必要で奨学金も出ない国は日本だけだ。進学を止めて、自衛隊に入れば奨学金も入る。これが経済的徴兵制も問題となっている。今度の学習指導要領でさらに、教育の機会均等が保障されなくなってくる。(裏面に続く)





## 参加者の感想から

・道徳の教科化の問題を豊富な資料を紹介しながら詳しく話していただき、問題の核心がつかめました。県議会の中にいて安倍内閣の進める教育政策がどのように具体化されていくのかの一端を実際に見てきた経験もあり、非常に興味を持って聞かせていただきました。さらに、学習を深めて教育の右傾化を止める運動を作っていくために自分が何ができるのかも考え、取り組んでいきたいと思います。

・道徳教科化の背景について様々な資料を用いて説明して下さい、大変よくわかりました。権利や民主主義についてしっかりとした考えを育てることが必要だと思いました。18歳選挙権が実施されるにあたり主権者としての意識を持つためにどうしたらいいかみんなで話し合っていきたいと思います。

・道徳が教科化されることで、今まで道徳で当たり前のように扱ってきた平和・人権や民主主義の学習がなくなることが大問題と思いました。これから道徳で、国の検定で合格した教科書を学習するのかと思うと、背筋が凍り付く思いです。

・学力と家庭の経済力とはどんな調査をやってもはっきりとした関係が出る、というお話しは「やはり」と思ってもショックでした。大企業は人材確保で有名大学の卒業生に目をつけるのは「苦しい状態でも辛抱できる資質を持っている」からだそうだ。権力の側にいる人は道徳でも教科書でも教育でも締め付けるだけ締め付けて、それで残る人たちだけを取り込むことを考えているのだろう。一方私たちは"みんなで賢くなろう""みんなで幸せになろう"という立場でやっている。人は裾野が広い方がいろいろな人が出てくる。それが大事なことを、この世の中が証明していると思う。

## 年金・健康保険の継続について寄せられた臨時教員の声

教職員の会が、4月末から5月に行った「厚生年金・健康保険の継続措置についての調査」には、57名の臨時教員のみなさんから回答が寄せられました。そのうち今回の継続措置についての感想をいくつか紹介します。

・年金については、振込をしなくてよかったので楽です。健康保険は、4月1日から保険証を使うことができるのでありがたいです。

・子どもがいるので3月31日に保険証が使えるという安心感がありました。ありがとうございました。

・昨年までの非常にわずらわしい手間が省かれ本当によかったと思います。

・年金は、忙しくなかなか支払いにいけなかったり、健康保険については、子どもを持つ身として、継続されたことは大変ありがたかった。

・新年度保険がいつも4月末になってハラハラしましたが、今回継続でとてもよかったです。

・継続措置で手続きをせず、継続することができたのでありがたいです。

・継続措置となり、手続き(これまでの)の負担が軽くなりよかった。

・継続することができたので、年度末の手続きが解消されとてもありがたいです。ありがとうございました。

・おかげさまでやっと改善された。

・保険証が、途切れることなく使えることは本当にありがたいです。

・毎年、1日分だけ国民年金に入らなければならぬめんどうでしたが、今回は継続していただいて、大変ありがたいです。

(別の件ですが、臨時教員任用時提出書類の中に「身体に関する証明書」を毎年4月より一ヶ月以内に提出がありますが、学校や町でも職員健康診断がすぐ行われるため、結局同じ事を重複していると思い、病院の費用もかかるので、どうにかできないかと思っています。)

## 沖縄平和の旅レポート その1

5月10日から13日まで、沖縄平和の旅に行ってきました。4日間、観光ではなく、沖縄の今をこの目で見てみたいと思い参加しました。現地では、徳島出身の元四国放送ディレクターの大島さん、名護市共同センターのみなさんがガイドしてくださいました。

この旅で、一貫して私が感じたのは「許せない!」という憤りでした。私の感じたことを、これから伝えたいと思います。

### 許せない! 普天間基地

着いて最初に行ったのは、普天間基地が見渡せる嘉数の高台です。ほんとに町のど真ん中にありました。面積は、宜野湾市の25%だそうです。あぶない!とにかくあぶない。オスプレイがずらりと2列に並んでいました。こんなにたくさんいたのかと驚き、騒音と危険の中での生活を想像し、即時閉鎖するべきだと思いました。さらに、普天間基地は沖縄の基地のたった2%だと聞き、唖然としました。すぐに撤去できるはずです。

ガイドの大島さんが、「ここは、沖縄の過去・現在・未来がみえる」と話されました。米軍が、近くの海岸に上陸し、沖縄戦が始まったのがここからでした。その時にすでに普天間基地の計画ができあがっていて、基地を作るつもりで町を焼き払い、住民は追い出されたり殺されたりしたのです。強制的に土地を取り上げられた過去の事実。当然、早く元の住民に土地を返すべきではないでしょうか。

現在はというと、2004年に米軍ヘリが墜落した沖縄国際大学、基地の近くにある小学校も見えます。基地存続を揺るがす大事故があっても、オスプレイがルール無視して訓練しても真実をほとんど知らせないまま隠蔽してしまうメディア。実は本土でもオスプレイが飛び「本土の沖縄化が進んでいるよ」と大島さんが強く言われました。アンテナ張って自分から知ろうとしていかなければいけないと思いました。

将来の基地返還後にすぐ都市作りができるように、前市長は、軍用地を少しずつ買っていたそうです。滑走路は直線道路に代わり、安全な町になるように。

しかし、この文章を書いているとき、米軍属による女性殺害事件がおきました。本当に許せない! (M.O)



普天間基地について話される大島さん

.....



## 教育署名スタート!!

今年度のゆきとどいた教育を求める全国署名と県署名がスタートしました。9月中旬に1次集約を行います。それまでに徳島労連事務所に届けて下さい。よろしくお願いします。